怪盗の美学

Caster

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
怪盗の美学

【Ｎコード】
Ｎ４２０７Ｚ

【作者名】
Ｃａｓｔｅｒ

【あらすじ】
怪盗…それは圧倒的なカリスマをもった、まさに”悪のヒーロー”。
ただしそれは小説や漫画の中だけで、現実世界にはありえない……はずなのに…俺怪盗やる羽目になりました。
このお話はいきなり怪盗をやらされてしまった主人公のサクセスストーリー（笑）です。
そこには、ギャグあり、シリアスあり?、恋愛あり?の大冒険にな

るはず…。

見ている貴方に正しい怪盗のなりかた教えます！

プロローグ（前書き）

この作品を見ていただきありがとうございます。
おもしろそう…とか思っていただけたら幸いです。

それではどうぞ！

プロローグ

”怪盗”

これを聞いてまず何を思うだろうか？

”幻”？”幻想”？”フィクション”？

いろいろあるだろうが、共通する事は一つ。

”泥棒”である。

まぁ、テレビや雑誌、ネットなどを賑している”泥棒”と違う所といえば、ただ（・・）盗むのではなく、華麗にそしてかっこよく盗むと言う事だろう。

そのカリスマゆえに人々は魅了され、そしていつしか”悪のヒーロー”として祀り上げられることだろう。

そして今日、怪盗という言葉が小説や漫画の世界でしか見た事のない現代にまた新たな怪盗が生まれようとしていた。

ただしそれは……

「今日からお前は怪盗として活動するのじゃ！！」

あまりにも突然で…

「は？……ついにボケたか爺さん。」

「ボケとらんわぁぁぁぁ！！この馬鹿孫がぁぁぁぁ！！！！！」

「どう考えてもボケとしか思えんだろうがこのくそ爺ぃぃぃぃぃ！！！！」

とても忙しない誕生であった。

【怪盗の美学】

第一章：職業大学生＆怪盗（見習い）

日本特有の蒸し暑さ。

「なんでこんな暑い中、帰らないといけないんだろう…。」

道がコンクリートで舗装されているせいで、天気予報の予想温度よ

り遥かに高いだろうと思い、思わず愚痴りながら家へと帰る青年であった。

斎藤勇治……今日で１９歳

高校生活を友人の遊びと部活でギリギリまで過ごし、何とか志望校である大学へ滑り込み入学を果たした勇治は、夏期休暇に入る前の最後のテストを受け、早々と自宅へと向かっていた。
最初は、テスト空けでテンションも高く、今日が自分の誕生日だと言う事で大学の友達とこのまま何処かへ遊びに繰り出そうか？と言う話をしていたのだが、そこに母親から一通のメールが届いた。

［今日大事な用があるので、テストが終わったならすぐに帰ってきなさい。
Ｐ・Ｓ…どうせ誕生日なのに一緒に祝う彼女なんていないんでしょ？いるなら今度家に連れてきなさい。］

……とりあえずいろいろ突っ込みたい。
まず、今時分Ｐ・Ｓとか使う人は母親しかいないだろう。
と言うか、なぜそれをつかった！！
もっと他に書き方があるだろう。今は思いつかないけど…
もう一つは確かに彼女はいないが、それを母親に突っ込まれたくない。と言うか、たとえいたとしてもわざわざ母親を紹介する必要なんてどこにもない。
あとそれが事実だとしても言わないで欲しい。
悲しくなるから……

とまぁいろいろ頭の中で突っ込みながらも、とりあえず用事があるらしいので、友人と別れ家へと向かった。

「しっかしなぁ…用事って一体なんだ？今日何かあるなら昨日の内に話しておくか、遅くとも今日の朝に伝えればいいはずなのに…そんなに緊急なのか？」

ついつい独り言を呟いてしまう。
一瞬親族に不幸でもあったのかとも思ったが、すぐにその考えは捨てた。
それなら電話でもしてくるだろうし、何よりその光景が思いつかない。
父親は”今日も元気に仕入れだぁ！”とはしゃぎながら朝早く出て行った。
明らかに歳誤魔化しているだろうと思うくらい元気だし、体力とかもすごい。
どうやったらあんな重たい荷物を軽々と持ち上げて走れるんだろうか？
前見た時は、２０ｋｇはあるんじゃね？って思うくらいの荷物を軽々持ち上げ肩に担いだかと思うと、元気に走っていた。町内の人とかは見慣れているからか、”今日も元気ですね～”とか声かけてたけど、普通はありえないと思う。
だってもうすぐ４５歳になるおっさんだぜ？
腰の心配しながらゆっくり歩くのが普通だと思う。
体とか鍛えてないはずだし…
そしてもう一人近くに住んでいないけど爺さん。
歳から考えたら一番可能性があるのがこの人なんだけど…やっぱり今死ぬ所は想像できない。
今年７２歳になるのだが、あの人もいろいろおかしい。
前にこんな事があった。

「のう勇治よ。」

「何爺さん？」

「ワシのこと嫌いか？」

「……は？」

「だから…」

「いや、聞き取れなかったわけじゃなくて、何でいきなり？」

「いいではないか！それで嫌いなのか？」

「いや…別に嫌いじゃないけど？」

「ほっほ…。それは良かった。尊敬もしてくれるか？」

「そりゃ…昔からいろいろ教えてくれるし、俺とか親を大切にしてくれているってわかるから尊敬してるけど？」

「そうか、そうか。…ならワシが壊したコレ当然許してくれるよな？」

そう言って渡してきたのは一枚のＤＶＤ。
見事に真ん中から割れて、それが入っていたであろうケースには足で踏まれた後がある。

「……ちょっとまてよ。それたしか爺さんが見たいって言うから貸した俺のＤＶＤだよな。確か大切に扱ってくれって言ったはずだけど…」

それは、ＢＯＸで買った俺の大切なＤＶＤだった。
それが出ると分かった時から予約をして、ＢＯＸって事で金額も高かったため、好きな本やゲームを我慢して、必死にためたおこずかいで買った物だった。
見たのはまだ一回きり。
もう一度最初から見ようとしていた時に、爺さんが暇つぶしで貸して欲しいと言ったから、泣く泣く貸した物だった。
丁度その時期は忙しい時でもあったため、見る時間も少なく、貸す位ならいいと思って貸したのだが……どうやらものの見事に壊してくれたようだ。

「すまんの。ちょっとトイレに行こうとしたら……ついついふんじゃった☆」

「…なるほど。俺に喧嘩うってるんだな？そうなんだな？じゃなかったらそんな言い方しねーよな？……上等だ。そこに土下座しやがれーー！！！」

「ほう。…こっちは誠心誠意あやまっとると言うのに拳を向けてくるか……その根性叩きなおしてくれるわ！！」

「どう考えても誠心誠意謝ってるように見えねーんだよ！！！」

と、理由はくだらない事だったが、喧嘩した訳だ。
ちなみにあの時は相手が老人と言うことも忘れて手加減無しにぶつかって行ったのだが……
結果は俺の負け。
それどころか一発もあたらず、最終的に爺さんがはいつくばっている俺の上で悠々とお茶を飲んでいた。
な？おかしいだろ？頭も身体能力も…

なので親族に不幸があったとは考えにくい。

となると後は……

とそうこうしているうちに、俺は家についてしまった。
そして家の中に入ろうとした瞬間。

俺は何故か寒気がした。

今思えばそれは体がこれから来るであろう厄介ごとに反応したと言う事だったのだろう。
まぁ今更仕方が無い事。
なぜなら小説にしかなかったお話が、現実に起こってしまっているのだから。

プロローグ（後書き）

いかがだったでしょうか？すこしでもワクワクしてもらえたなら嬉しいです。

この作品はまだ完全に連載すると決めているわけではありません。なので、続きが気になる・おもしろそうなど感想に書いていただけるとこの作品を連載する意欲がわくと思います。

今とりあえずある程度区切りがつく所までは投稿する予定です。タイトルの意味する所までは書かないといけないと思っていますので…

これからよろしくおねがいします。

感想お待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4207z/

怪盗の美学

2011年12月14日17時54分発行